

## 平成 25 年度第 2 回木更津市郷土博物館金のすず協議会会議録

- 1 日 時 平成 25 年 11 月 6 日 午後 1 時 30 分～4 時
- 2 場 所 金のすず集会室
- 3 出席委員 委員長 中村 哲  
委員 藤浪 弘美、圓谷 加陽子、古泉 忠之、高橋 めぐみ
- 4 出席職員 初谷教育長、能城教育部長、本多教育部次長、高橋文化課長  
石井館長、平野副館長、稲葉副主幹、伴主査、井上主査、多田事務員
- 5 傍聴人数 0 名
- 6 報 告 (1) 平成 25 年度上半期事業報告について
- 7 議 題 (1) 平成 25 年度下半期事業計画について  
(2) 平成 26 年度事業計画(案)について

### 8 議事大要

事務局(稲葉): ただいまより、平成 25 年度第 2 回「木更津市郷土博物館金のすず協議会」を開催いたします。

本日は、荻野議員が都合により欠席ですが、5 名の委員の方々の出席を頂いております。委員の半数以上が出席しておりますので、木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則第 8 条により、会議は成立しております。

また、木更津市審議会等の会議公開に関する条例第 3 条に基づき、本会議は一般公開となっておりますが、傍聴人は 0 人です。

それでは会議開催にあたり、木更津市郷土博物館金のすず協議会中村委員長にご挨拶をお願いいたします。

中村委員長: 挨拶

事務局(稲葉): ありがとうございます。続きまして、初谷教育長よりご挨拶申し上げます。

初谷教育長: 挨拶

事務局(稲葉): それでは、協議会次第によりまして議事に入らせていただきますが、運営規則により中村委員長に議長をお願いいたします。

委員長: それでは議事に入ります。報告 1 の「平成 25 年度上半期事業報告」の説明を事務局に求めます。

事務局(平野): (説明する)

委員長: 事務局から説明がありましたが、委員の皆様何かご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

藤浪委員: この上半期の中にこれだけの行事をこなしているんだから、大変なことだと思いました。この博物館の友の会で、サークルはいくつくらいあるのでしょうか。

平野副館長: 現在友の会は 134 名の加入者がおりますが、サークルは 5 つです。その中で、機織サークル、土器作りサークル、植物サークル、金鈴古文書広場、ベルフ

ラワー四季の会、が活動しております。金鈴古文書広場というのは今年度から保管庫の方で活動しております。ベルフラワー四季の会はやはり今年度からですが、博物館の前をお花で飾ろうということで、プランターに四季の花を植えていただいております。あと博物館支援ボランティアがありまして、博物館事業のお手伝いをしていただいております。

藤浪委員： ずいぶんあるんですね。しかし、これだけの事業を行うのも大変だけど、半年間計画するのも大変なことですね。

委員長： 前年度比 35 パーセントぐらい減っているんですね。結局外からきてもらう人たちを待ってても、無理なんですね、今の時代。そうすると結局は事業と絡みあってそこに協力者がいないと、その協力者というのは学校ですね。特に先生のところみたいに、大学の一つの教科とかサークルと連携して何かやると。代々、学校は変わってきますからね。それを伝統にずっとやっていくとか。博物館、地域のためにもなる。

先生の方もやっぱり厳しいんですか、連携ってというのは。

圓谷委員： そうですね。短大なので、すごくカリキュラムがたくさん入っていて、この8月に環境教育の一環で幼稚園、保育園の先生目指してる学生たちを芝生広場の方に連れてきて、その帰りにここに寄らせていただいて、見学させていただいたんですが、結構木更津の近辺に住んでる学生でも、ここの存在をあんまり知っている子がなくて、大事な文化財があるということを全く知らない子が非常に多かったので、1回、2回分の授業でここに来ることは可能だったんですけども、継続的に何か活動するまでは難しいかなと思うので、部活動とかそういったものが立ち上がればその中で。

委員長： 今、最近の学生さんは金のすずのことを全然知らない。一時これが出来たとき県立の第1号ですからね、すごい人気だったんですよ。周りの大人も子供も学校も結構来て、今の天皇陛下も。そういうようなときに、ものすごく人気あったんですよ。そういう世代がみんな変わって行って、博物館の使命も変わってきて、今はどちらかというと第3期なんですね。見たり与えたりしたものを、行きましよう、お金払って見ましようっていうのでなくて、自分等が当事者になって提言して協議会をおいて何か新しい企画をという形の世の中になってきてますね。

他に何かございますか。

古泉委員： 質問ですが、たくさんの事業をやっていて本当大変だと思います。限られた人数でやってらっしゃるというのは大変だと思うんですが、保管庫のこと聞いたんですけど、保管庫に侵入があったとか。1つはその保管庫に入っている物の管理の状況です。もちろん被害はなかったと思うんですが、金鈴塚古墳の同定作業を行ったというふうに書いてありますが、保存されている物がどういうものかっているのを合わせて表みたいにするんだろうと思いますが、そういう点検作業は本当に莫大な時間がかかると思います。おそらくここに保管されている遺物は

歴史的遺物がたくさんあると思うんですが、その辺の進捗状況はどうか、莫大な時間がかかるだろうと思われるので、難しかったらそれは約で良いんですが、そのことを知りたいというのが1点です。2点目は、災害時の協力の検討ということではありますが、具体的な協力というのはどんなことがあるのかということを知りたいです。

稲葉： まず、金鈴塚古墳の同定作業のことについてですが、どれがこの指定書に載っている文化財で、どれがこの指定書から外れてる文化財かというのを判断しなくてはなりません。指定書に載っているもの、本物とその指定書に載っているものの同定できる写真なり図面が無いといけないということになります。全部を最後の1点まで同定するのは難しい。極力近づけるよう専属の臨時職員が図化作業に取り組んでおります。今回、文化庁の指導を頂きまして、焼き物についてだけ資料の同定を終了しました。

多田： 君津地方公立博物館被害ということで災害時の対策についてお話しをさせていただきます。現在、君博協では災害時の相互協力に関する覚書を取り交わすべく協議中です。救済する資料の対象をどこまでにするか、また派遣期間について話し合いを進めています。

委員長： 今、君津地方だけの連携ですよね。いろいろ災害時の前例となるような資料と案はあるでしょう。まず中央博行って、当時預かった九十九里の調べて見ると、前例としてはいいかも知れないですね。

館長： 当館も県博協の会員の一員という形で出ているわけですが、その中で九十九里の事例が出ていまして、実のところ県博協の中でも各館災害時の協力体制というものは今案を練っていると。ただ、なかなか進んでいかないというようなところもございまして、同じ進捗状況、若干それよりも進んでるかもしれませんが、日博協の中でも本年度当初館長会議で、全国の大きな目標として統一した全国の災害時の協力体制を作らなければいけない。現在進行形であるというお話なんですけれども。その辺のレベルは日博協、県博協でも同じようなまだレベルであると。

それよりも一刻でも早く我々3館がですね、文書に出来ればということで今進んでる状況でございます。

委員長： その通りだと思います。20年近く前からいろいろ言っただけど進まないです。ただこれだけ災害が多かったら、資料を移動させて預かるだけじゃ駄目。修復したり何かする。そうすると、この技術が得意なところデータも欲しい。この件については、それでよろしいでしょうか。

続きまして、平成25年度下半期の事業計画についてお願いいたします。

平野副館長：(説明する)

委員長： ご意見、ご質問、ございますか。

藤浪委員： 二日前に私、幕末の木更津、林様の資料を見て結構素晴らしいものが出ていて

びっくりしたんですが、もう二ヶ月くらい前に、博物館から連絡がありまして、こういう企画をするんだけど、東京の林様と間を繋いでもらいたいと言われて、私奥さんに電話して。その後で先月、特別展をやるもので資料をお借りしたいんだけど、話してほしいと言うもので、電話で木更津の博物館に資料を貸して欲しいとお願いしたところ、よろしいですとのことになった。それで、どういうものがあるか分かれば私も勉強にもなるし、資料を持ってきてあると思います。その後奥さんから電話があって今月17日に中村彰彦氏の講演会があるから、その話を聞きに行きたいって言うんです。

ともかく、東京の林さんと木更津を繋げとかななくてはいけないと思って40年近くやってますが、今回奥さんと孫たちが来ますが、5分、10分でも顔合わせでもしてもらいたい。そのまま帰したのでは、林勲さんに申し訳ないと思うんですが。17日終わればすぐ帰ると言っていますが、それなりの対応をしていただきたいと思います。

委員長： いろいろ仲介ご苦労いただきまして。

藤浪委員： いえいえ。

稲葉： その件につきまして、実は林薫子さんの方から、静かに来て静かに帰りたいというお話もありまして、当方としては、展示も一番の出品者でして、やはりその辺はどの程度まで対応したらと思っているところです。

藤浪委員： そうですか、170名もいるんだから、そこで、紹介ぐらいしてほしい。

稲葉： それが一番嫌だと本人がおっしゃっていますので。

藤浪委員： 私この前紹介しましたよね。

稲葉： そうですね。その辺も含めて慎重に対応していきたいと思います。

藤浪委員： 電話してみます。

委員長： 博物館で、大変なんだよね。こういう仁義の踏み方っていうか、そうしないと資料は借りられないし、人脈が続かないから。

藤浪委員： まだ資料あるというので、また2年3年後でも、借りてこられるように、繋がりをつけておけば。

委員長： それが結局博物館の人脈というか、それが一番大事だから、その行政体によってはそんな勝手なこと許さないというところもあるだろうし。会のにきに紹介するというのは、本人嫌がる人いっぱいいますが、名前を言って紹介させていただきます。と立って頭下げてもらえばそれで終わるからそれぐらいのことはやった方が。

藤浪委員： こういう人が来たとわかるだけでもいいじゃないですか。余分なことはやる必要ないですから。

委員長： それと木更津と林家は切れないですよ。歴史上。その恩とかなんとかじゃなくて、文化の歴史上切れないということだから。それともうひとつ、それと関連しますが、資料台帳とかはきっちりしていますか。

稲葉： 当日の件につきましては検討させていただきます。博物館に入っている資料について

てはなんとか整理されております。

委員長：じゃあ優秀だね。みんなわからなくなっているところが多いので。

稲葉：一部、資料を来年度いっぱいお借りする約束になっていまして、そのほかの資料についてもまた分割してお借りしようかなと考えております。

委員長：寄託してくれないですか。永久寄託。

稲葉：まだやはり家宝として大事にしている人には渡したくないとおっしゃっております。

委員長：所有権は移転しないで、寄託だけ。家にあると火事なんかになると大変。ここにあったほうが。

稲葉：そうなのですが。

藤浪委員：長男が戻ってきてからということに。

稲葉：それ以上は、その時は言わなかったんですけど。

委員長：そういう財宝が一括にどんと来たときに、資料館を建てたらどうか。記念館みたいなもの。そうすれば、収蔵庫を兼ねた収蔵展示ができる。そういうふうには、何かぱっぱ一っといかないと、宝って増えていかない。金鈴塚があるし、上総堀り道具があるし、いろいろあるから恵まれているけど、段々知っている人が少なくなってきた、金鈴塚どこですかとか聞かれてびっくりしっちゃった。

委員長：それでは 26 年度の事業計画について、お願いいたします。

副館長：(説明する)

委員長：はい ありがとうございます。ではご質問ございますでしょうか。

古泉委員：特別展の開催する期間、日数とかいつぐらいですか。だいたいいいです。

井上：現在、考えているのが、秋、10月、11月頃を予定として今考えています。

古泉委員：10月はアクアラインマラソンで大勢見えますよね。ものすごい数がきますから。うまくそれを、マッチングさせれば良いかもしれませんね。

委員長：予算要求するときに日にち入れないですか。

井上：日にちは特に入れません。

委員長：じゃあアクアラインとドッキングするのは可能ですね。やった方がいい。載っていたよ、広告に。他にございますか。それではなければ、一応今日の協議はこれで終わりということで、事務局にお返しいたします。

稲葉：本日は委員の皆様にはご多用の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。今後とも、当館の運營業務につきましてご鞭撻のほどをよろしく願いたします。また次回の協議会は来年の4月を予定しておりますので、よろしく願いたします。それではこれもちまして、平成25年度第2回木更津市郷土博物館金のすず議會を閉会いたします。なお、只今当館で特別展「幕末の木更津」を開催しておりますので、お時間のある皆様方にはこれより展示室の方へおこしください。よろしく願いたします。ありがとうございました。